

## 峯治城(別名無)(指定無)(津市一身田上津部田字ヲノ坪)

築城年代は定かではないが応永年間(1394年～1428年)に佐脇勝久によって築かれたと云われる。永禄11年(1568年)織田信長の侵攻により落城し滅亡したという。

峯治城は上津部田城と同じ丘陵の東側にあった。現在のサンマンションアーツ山の手の付近であるが、特にそれを示すような案内板や石碑は見付からなかった。

「城郭放浪記」による

峯治城(みねじじょう)

築城年：応永年間(1394～1428)

築城者：佐脇勝久

遺構：丘陵頂部の西に土塁を持った郭を主郭とし、その北側に土橋を介してⅡ郭を持っていた。郭・土塁・深い二重空堀があった。外側の堀は深さ4m、幅3m以上であった。主郭の東側には腰郭が備わっていた。主郭の北、西、東を巡る堀は土塁までの高低差が5mあった。構造から北側の防御に意識した城造りがうかがわれる。主郭へ入るにはⅢ郭から北へ回り込んで折り返し南へ登り、Ⅱ郭(枳形)を経て土橋を渡り虎口(四脚門)をくぐって至る。主郭には掘立柱建物や井戸があった。井戸郭と考えられるところには井戸が4基備わり、井戸の周りには多種多数の土器が埋まっていた北側には階段状に平坦な郭が3段丘陵突端部に続いていた。伊勢別街道と志登茂川を見下ろす。

城主：佐脇勝久(佐脇氏は畠山氏に仕える国人の家柄である。朝明郡柿村に佐脇三河守が守備したが三河国から伊勢に来往した佐脇久隆の一族ではないだろうか。佐脇勝久は更に南下し一身田を守護したと思われる。付近には佐脇姓が数多く残るといふ。)

歴史：永禄11年(1568)信長の伊勢侵攻の際に滅んだという。

「山城遺産」による

